

FOS 報告書 (2026/1/29)

Harvard University SEAS Bioengineering PhD

河井理雄

mail:michio_kawai@g.harvard.edu

1. はじめに

ハーバード大学の Bioengineering 課程で PhD 学生をしている河井理雄と申します。日本に長めに帰省したり、久しぶりに熱を出したりしていて報告書を出すのが遅くなってしまいました。アメリカ東部では今大寒波が来っていて、気温は-10°Cを下回ることも多いです。ボストンの冬にも慣れてきたつもりでしたが流石に厳しい寒さで、春が待ち遠しいです。

2. 研究

プロジェクトに一区切りがつき、昨年末からずっと論文を書いていました。私がやっているソフトロボット(一部)やバイオロボットはロボティクスの分野では珍しく、学会ではなく科学誌に出すことをゴールにしがちな文化です。まずはロボティクスの専門誌ではなく総合誌から出してみることになったのですが、自分の研究成果にどう普遍的な価値を見出すかずっと悩んでいます。東大にいた時、とても偉いロボティクスの先生が最終公演で「ロボティクスが真理を探求するに値するものなのか、消費されるポピュラーサイエンスなのか、枯れて人の役に立つエンジニアリングなのか、まだ分からぬでいる」とおっしゃっていたのがすごく心に残っていて、今になってその意味を低いレベルで少しだけ理解している気がします。まあ、あまり考えて狙いすぎると筆が進まなくなるので、さっさと出して採択されたら嬉しいし、ダメだったらまた次頑張ろうくらいの気持ちでいようと思います。

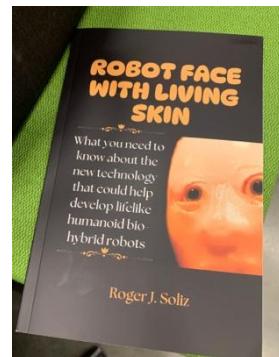
並行して新しいプロジェクトについても考えなければいけません。数年かけて落ち着いてやれるプロジェクトとしては最後になるかもしれないと思っているので、将来を見据えて内容を決めていきたいと考えています。自分としてはこれまで皮膚の研究、心臓の研究と来て最後に脳を扱いたく、ニューロンの培養を始めようかなと教授と相談中です。

些事ですが、昔の論文がジャーナルの Best of 2024 の一つに選ばれました。早く新しい研究も出したいです。

その他

昨年結婚し、挙式だけ夏に済ませてしまっていたのですが年末に披露宴を行いました。普段なかなか会えない友人たちと久しぶりに再会できてとてもよかったです。

会社を辞めてからは衣食住と研究環境があれぱいいくらいの気持ちで生きていましたが、結婚するとそういうわけにもいきません。妻は今の所は日本にいて、将来として日本でのキャリアも視野に入れ始めましたが、日本の教職の給料とアメリカのポスドク給料を比べてみる結構ショックを受けたりもします…。焦らず決めていこうと思います。



自分の昔の研究について本を出版してくださいました。嬉しいです。別で来年出版される予定の本も製作中なのでそちらも楽しみです。